

9. 空間線量率等分布マップの作成と公開

9.1 目的

分布状況調査で取得したデータ（走行サーベイ、定点サーベイ及び無人ヘリサーベイ等による空間線量率、並びに可搬型 Ge 検出器を用いた in-situ 測定による放射性セシウムの土壌沈着量）を基に国土地理院の地図上に掲載する分布マップを作成した。さらに、地方自治体や住民に広く公開し各種対策の基礎資料として提供するため、放射線量等の分布マップ閲覧用 Web サイト「放射線量等分布マップ拡大サイト」⁵²⁾（以下「拡大サイト」という。）の構築・運用作業を行った。

9.2 空間線量率等分布マップの作成と公開

過去 10 年継続している拡大サイトでは、測定データを国土地理院の地図上に掲載する分布マップを作成し公開している。すでに公開中の平成 23 年度～令和 2 年度調査のデータに令和 3 年度に実施した調査による空間線量率測定データ・放射性セシウム沈着量測定データ等を加えた。これにより、放射線量等の最新情報や経年変化を同一マップシステム上で閲覧可能とした。

本調査で測定したデータを公開するにあたって、以下のような手順で行った。まず、関係者のみが閲覧できる制限付き分布マップシステムに登録し、マップデータの齟齬がないか関係者の確認を経てから、一般公開用の分布マップシステムに登録を行った。

令和 3 年度に拡大サイトに追加掲載した内容は以下のとおりである。一例として、令和 3 年度走行サーベイ測定データを表示させた画面を図 9-1 に示す。

- Web 地図（電子国土）版、スマートフォン版

- 走行サーベイ（第 22 回及び第 23 回）

- 定点サーベイ（第 15 回）

- 無人ヘリサーベイ（第 13 回）

- 放射性セシウム土壌沈着量（in-situ 測定）（第 14 回）

- 避難指示区域（令和 2 年 3 月 10 日現在）

- PDF 版

- Web 地図（電子国土）版と同様の内容を A4 サイズの地図上にプロットした日本語版、英語版の PDF ファイル（約 200 枚）を作成し公開した。

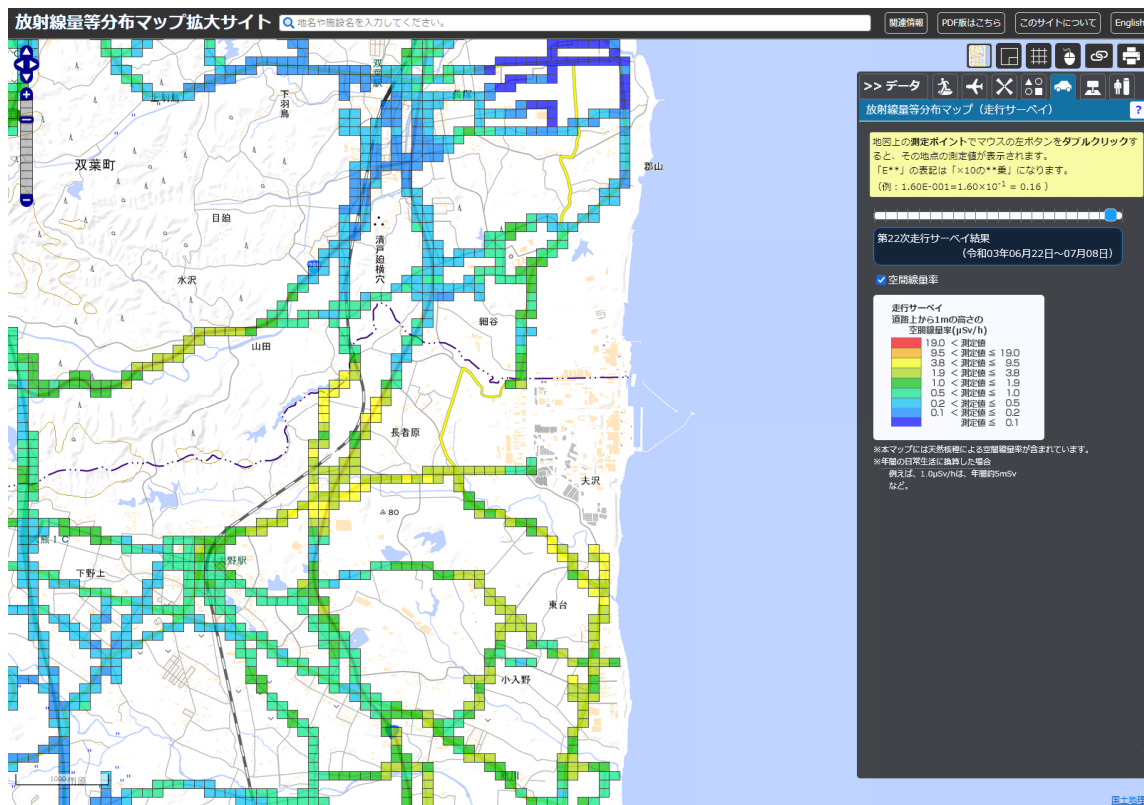


図 9-1 拡大サイト⁵²⁾における測定データ（第 22 回走行サーベイ）表示例

9.3 空間線量率等分布マップの運用管理

拡大サイトを安定して運用するため、登録データの遺失防止のためのバックアップ作業や分布マップシステムへのアクセス管理を実施した。令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 2 月 28 日現在までの 334 日間において、システムサーバ等に障害は生じなかった。サイト運営管理において、日々のアクセス数の動向を記録し、ユニークユーザ及びページビュー^dの管理を行った（図 9-2）。

拡大サイトは令和 4 年 3 月 31 日をもって閉鎖するため、令和 3 年 10 月 1 日に原子力機構が本格運用を開始した「放射性物質モニタリングデータの情報公開サイト」にその機能を移行する予定であることを移行後の URL とともに初期画面に表示し、サイト閲覧者への周知を図った。

^d ユニークユーザは、日々アクセスされた IP アドレスを集計したものであり、同一アドレスについては重複して数えず 1 件としてカウントする。ページビューは、サイトを閲覧した全アクセスをカウントする集計値。同一 IP アドレスも重複してカウントする。

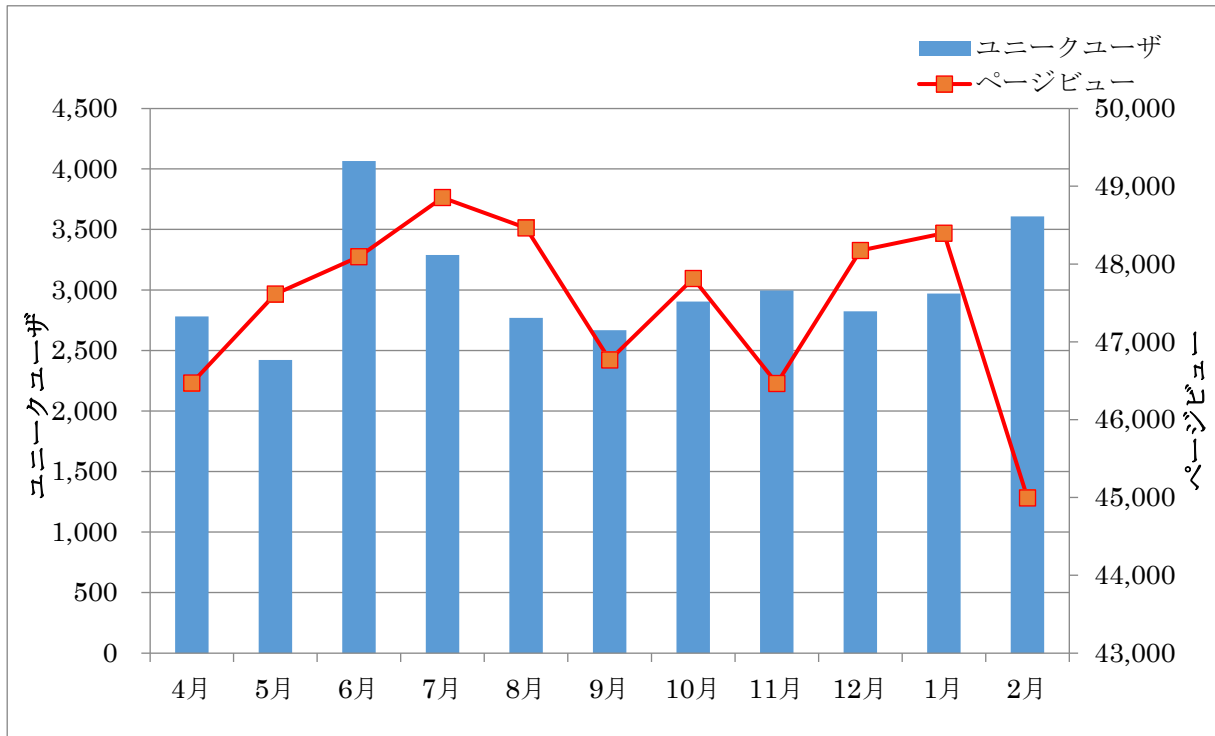


図 9-2 拡大サイトへの令和 3 年度アクセス状況